

受賞作品が決まりました

第17回「海の香りのする詩」

海をテーマにした「海の香りのする詩」の受賞作品が決定しました。

市内から680点、市外(県内)からは380点の応募があり、次のみなさんが入賞しました。

教育委員会生涯学習課

☎(25) 1268

【市内小学生の部】

大賞 「ばあちゃんはプロ」中山花瞳(弘道小5年)、作品は3ページに掲載しました。

伊良子清白賞 「おじいちゃんの船」森下実桜(鳥羽小6年)

入賞 「海の友だちと波にのる」小屋敷萌香(加茂小6年)、「海の香りは 海女のおい」松井莉乃(弘道小6年)、「海女になる」松井菜々子(弘道小5年)

【市内中学生の部】

大賞 「海の月」藤田季里(鳥羽東中3年)

だから私は眺め
羨んだ

私がどれだけ知りたくても
知れない世界を
海月は知っている

色とりどりの魅力溢れる世界
も

海月にとつては単なる日常
ただ淡々と 煌々と
海を見透かす
だけ

海月は知らない
地上から見える

この美しい光景を

この高揚する思いを

真夜中に

ひっそりと漂う海の月を

海月は知らない

伊良子清白賞 「船大工」奥村棕(鳥羽東中3年)

入賞 「海の香りを作るじいちゃん」齋藤勇太(鳥羽東中2年)、「ごうやこの汗ずいちゃん」永富那於(答志中1年)、「話す海」中村涼子(加茂中3年)

奨励賞 「しろんごの海と海女達」小寺敢(鳥羽東中2年)、「君の香りと僕の香り」濱口遼平(答志中3年)

みなさんの作品は、受賞作品集として編集し配布する予定です。

※敬称略



「死んだらアカン」 命の灯台・東尋坊からのメッセージ

11月30日、鳥羽商工会議所かもめホールにおいて、人権講演会が開かれました。

福井県坂井市東尋坊。岩肌が削られた高さ25メートルの絶壁に、年間100万人の観光客が訪れます。その一方、毎年20数人の人が命を絶つ自殺の名所としても知られています。その東尋坊で2004年から見回りを続け、自殺予防活動を続ける茂幸雄さん(元三国警察副署長)はこのように呼びかけます。

「自らの生命保険で、従業員の給与を支払うために、崖っぷちに立った社長がいました。青年も、判断力のある大人も岩に立つ。だれだって。自らの命を断とうとする彼らは死に

Vol.129

たいのではなく、死なねばならぬほど苦しいのです。その気持ちを他の誰かに分かってもらいたいのです。心に響く優しい言葉を掛けてもらいたいのです。その声なき声に耳を澄ませていくのが私の役目です。この活動で、もう一度人間としての喜びと安らぎを取り戻してもらっています」

また、茂さんと活動を共にし、自死(自殺)遺族としての苦しかった体験を語る川越みさ子さんの「私のような人たちを出してはならない」という話には、魂の底からの思いを感じることができました。思いやりが欠如し、人と人とのつながりが希薄になっていく現代社会、親身になって聴いてくれる相手がいない、どんなにつらくても、手を差し伸べてくれる人がいない、深い心の闇に閉ざされた孤独感、「何かできることはありますか。子どもたちの未来のために、人と人とを繋ぐヒューマンネットワークを創っていきましよう。まず小さなことから始めていきましよう。恩返しでなく、恩送り(自分の受けた恩を他の人に返す)をしまししよう」茂さんの声が心に響いています。